



熊事研会報

第143号

熊本県学校事務研究協議会
発行人 会長 宮崎 文子
編集代表 研究部長 平野 哲也

～目次～

- この1年を振り返って（会長挨拶）
- 退職者よりメッセージ
- あとがき
- 全事研発表実行委員会活動報告
- 研究部で学んだこと

この1年を振り返って

熊本県学校事務研究協議会 会長 宮崎 文子

今年度も、振り返ればやはり新型コロナウイルス感染症拡大防止に明け暮れた1年でした。しかし、昨年度とは違い、今年度は新たな取組に挑戦しました。

総会は参集型での開催を諦め書面表決により行うこととし、研究基調提案だけでも、動画で、そして言葉で伝えることはできないか、と研究部に投げかけたところ、YouTubeで配信することができました。1月の研究大会も、配信で行うことを早い段階から決め、運営にあたり、講師が話しやすいように、役員だけでも直接講演がきけるように、と役員全員で計画しておりましたが、直前になり第6波が押し寄せ、講師の来熊さえ危ぶまれるなか、最少人数の役員で運営することにしました。幸い講師の来熊は実現でき、モチベーションがあがる講話をいただくことができました。その後研究部より「研究のまとめ」も発行され、パネルディスカッションで登壇予定でありましたパネリストの方々からも温かい言葉をいただくことができました。

このようにして、どうにかこの1年を終えることができました。配信については、いくつかの課題はあるものの、会員の皆様からはおおむね好評をいただいております。学校において子どもたちの学びを止めることはできないように、私たち学校事務職員の学びも止めることはできません。一人職種であるからこそ、校内での経験からだけでなく、共同学校事務室で、地区の研究会で、そして熊事研で学ばなければキャリアアップは難しいと思います。特に、研修だけでなく研究の分野でも先を見通し学びの場を提供するのが地区研であり熊事研です。熊事研は全県下の組織ですので、文部科学省から講師を招いての講演等、地区研ではできないような取組も行うことができます。（熊事研が全事研に加入しているからこそ文部科学省からの派遣も可能となります。熊事研＝全事研です。）令和2年度以降採用の学校事務職員は、まだ一度も参集型の県大会を経験しておられません。熊事研の県大会は九州の中でも規模の大きな大会です。500人を超える会員の多くが、年に2回一同に会する研究大会を熊事研では行ってきました。自分にはこんなに多くの仲間がいる、ということを実感していただき、研究大会に参加することによっていろいろな刺激を受けていただきたいと思います。令和8年度に全事研大会が佐賀県で行われることが決まりました。平成27年度の全事研熊本大会では九州各県に分科会をもつていただきましたので、熊事研として今年度は佐賀大会の発表チームの立ち上げを行いました。全事研からの研究テーマのお題はまだ示されていませんが、今の学校の現状から見えてくることのまとめに取り掛かったタスクチームです。

現代の予測不可能な状況において、研究部・事務局・理事の皆様、そして全事研発表のタスクチームの皆様、臨機応変に対応していただきましたことに深く感謝申し上げます。自分の学校の

職務以外に熊事研の役員を引き受けるということは、時間は取られずし重荷ではあるのですが、その経験は決して無駄にはなりませんし、そこでの出会いや学びは自分の財産になります。会員の皆様におかれましても、コロナ禍における気苦労はまだまだ終わりになりそうにありませんが、今後もタフに臨機応変に、子どもたちの笑顔を未来につなぐために、共に頑張っていきましょう。今年度1年間本当にありがとうございました。

全事研発表実行委員会活動報告

五木村立五木中学校 福永高嗣

この度、全国公立小中学校事務研究大会佐賀大会（以下、佐賀大会と称します。）実行委員会の実行委員長になりました人吉球磨地区、五木村立五木中学校の福永高嗣と申します。過去の鳥取大会、熊本大会で分科会研究班員だった経緯から拝命することになったと解釈しておりますが、そもそも力量がありませんので、会員の皆様のご指導をいただきつつ、実行委員会のメンバーと協力し、よりよいものを皆様にお返しできればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本実行委員会は、令和8年度に開催予定である佐賀大会で、熊本が分科会を運営することになっており、その準備のための会です。実際の研究は、これから提示される予定の全事研第10次研究計画のテーマに沿って進めていくこととなりますが、以下、現時点での活動報告をいたします。

1 活動報告

(1) 第1回準備委員会（令和2年12月14日、くまもと森都心プラザ）

鳥取大会、熊本大会の経験をもとに発表までのスケジュールや研究の進め方などを検討しました。その後、実行委員会の組織や立ち上げの時期を決め、実行委員の候補を選出しました。

(2) 第2回準備委員会・第1回実行委員会（令和3年11月1日、くまもと森都心プラザ）

実行委員の方々に臨席いただき、全事研・九州地区の動向を確認した後、鳥取大会、熊本大会での研究内容を実行委員向けに復習の研修を行いました。後半は、実行委員会の運営に係る予算や今後のスケジュール、これからの実行委員会の組織作りについて、改めて検討を行いました。

(3) 第2回実行委員会（令和4年2月2日、ZOOMによるオンライン会議）

初めての実行委員会メンバーのみでの会合でしたが、オンラインとなりました。

研究の導入にあたって、実行委員同士の意識の摺り合わせのため、「学校事務職員の将来像とビジョンについて」をテーマにブレインストーミングを行いました。2時間という短い時間ではありましたが、お互いの考えを共有し、意識の摺り合わせは成功できたと思います。具体的には研究経過報告をご覧ください。

以上、準備委員会も含め3回開催しました。実際に研究を始めたのが第2回実行委員会（オンライン）の1回だけですので、令和4年度は参集した形で数回の開催を予定しています。また、現在の実行委員会メンバーは私も含めて5名です。地区にも偏りがありますので、力を貸してもいいぞという方がいらっしゃれば、是非、声をあげてください。

2 研究経過報告

(1) 全事研の動向

文部科学省は、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部事業（学校支援地域本部事業）を活用し「地域とともにある学校づくり」を推進しています。それに伴い全事研でも、本年度開催された埼玉大会のテーマが「子どもの未来を創造する地域協働」となっているように、「学校と地域の協働」に事務職員がどう役割を果たしていくかを追求されています。

また、新たな試みとして、SDGs（持続可能な開発目標）を意識した学校運営がこれから必須であること、一般企業においてもSDGsへの取組が必須であることを鑑み、「学校と地域の協働」への地元企業の参画も促し、3者での地域協働にwin-winの関係を築くための支援についても提案されています。

(2) 研究経過

先述しましたが、以下が「学校事務職員の将来像とビジョンについて」をテーマにしたブレーストーミングで出た意見です。（あくまでも研究経過ですので、熊事研としての見解ではないことをご承知の上、暖かい眼差しでご一読ください。）

- ・「学校」「地域」「教育委員会（行政）」をつなぎ、円滑に協働できるための支援を担う。
- ・将来、役割の変化や業務内容の変化が訪れる。
- ・災害が多い現代において、不測の事態にも対応できる事務職員。
- ・引き出しの多い事務職員（スキル、ツール）。
- ・しなやかに生きる力をもつ。
- ・現状の組織体であっても、考えればできることは色々ある。

一部ではありますが、上記のような意見が出てきました。今回の会に参加するにあたって、私の考えもまとめてはみたのですが、今までの経験や余計な知識が影響するのか、将来像やビジョンを考えると苦しい状況や暗い未来ばかりが想像されました。しかし、若い実行委員メンバーたちは、上記のように明るく力強い発言が多数あり、厳しい未来が待っているとしても大丈夫だと実感することができました。

さらに、協議の中から出てきた意見と、全事研の動向を踏まえて、将来の事務職員の業務を『「学校」「地域」「教育委員会（行政）」をつなぎ、円滑に協働できるための支援を担うこと』に仮定し、実現可能かなど課題を議論しました。以下、意見です。

- ・現在の県費事務においても負担感があるので、更に業務が増えるという思いはある。
- ・事務センター所属だが、取組として行っているのは、備品の共同購入くらいである。協働への支援など業務の幅を広げることができるのか想像できない。
- ・共同実施の中でも考えが一方向に向かないので協力してできるのか不安である。
- ・市町村によって、教育委員会との距離の違いを感じる。自治体が小規模だと近い、大規模だと遠い。
- ・現在、共同実施で行っているのは県費事務だけだが、学校の中で複数校間を横断した業務を行っているのは共同実施をしている事務職員だけではないか。

- ・キャパオーバーになっては、働き方改革にも逆行している。スムーズな業務内容の移行が必要であると思う。
- ・何をすることも教育委員会との関係づくりは重要ではないか。
- ・事務センターの取組が、備品の共同購入だけと謙遜されたが、複数校を俯瞰的に捉え財政面でも効率的執行が行えており素晴らしい取組だと思う。
- ・自治体が大規模だと事務職員の数も多い。協力し合えることができれば数の力は大きくなると思う。

3 今後の取組

議論で出た課題を一言でまとめるならば、「共同学校事務室で新たな取組を行うにも、どうやって？」ということです。

共同学校事務室があるとはいえ、今日現在においても、大半が一人職として、年齢や経験に関係なく同じ立場として働いています。自ら決断する場面も多く、責任も重いと思います。反面、協力して働くということには慣れていないのではないのでしょうか。また、各校の校長先生たちや教育委員会を飛び越えて「新たな取組」を進めるわけにはいきません。何か一つを進めていくにも、様々な連絡調整がとても重要になってきます。現時点ではどうすればいいか妙案は思いつきません。

ともあれ、オンライン会議という少々不便な形での会ではありましたが、自由な議論をすることができ、実行委員メンバーも心なしか楽しいという余韻を残し閉会することができました。当初の目的であった意識の摺り合わせも成功できたと思います。

全事研佐賀大会での発表内容は、新たな理論の追求が基本であるとは考えておりますが、令和8年度まではまだ長い期間があります。実行委員会のモチベーションを保つためにも、研究の進捗状況によるので確定ではありませんが、熊事研研究大会で皆様に研究成果の一部をお返ししていくという方向で実行委員会の考えは一致しています。研究を開始してまだわずかな期間ではありますが、現時点で出てきた課題に向き合い、研究を進めていきたいと思います。以上、研究経過報告を終わります。

メンバー紹介

① 氏名 ② 所属 ③ 勤続年数 ④ 抱負

① 城戸 康幸 (きど やすゆき)
 ② 玉名市立玉陵中学校
 ③ 14年目
 ④ 熊本大会の際には、全国各地から約2,200名が集い、九州各県に分科会を運営していただきました。至らないところは多々ありますが、佐賀大会成功のため、実行委員会として分科会運営のお役に立てればと思います。

① 山内 京介 (やまうち きょうすけ)
 ② 熊本市立御幸小学校
 ③ 7年目
 ④ この度全事研佐賀大会実行委員を仰せつかりました山内と申します。初めて全事研の運営に携わりますので不安はありますが全事研、熊事研、市事研をつなぐことができないか考え、事務職員のさらなる意識改革、業務改善のため精一杯学びながら他の実行委員の先生方の力になれるよう取り組みます。よろしくお願いいたします。

- ① 伊賀上 大起 (いがうえ たいき)
- ② 錦町立木上小学校
- ③ 13年目
- ④ 全事研大会(佐賀大会)の発表に係る実行委員になり、まだ大会は先ではあるものの、熊事研研究部に所属していたころとはまた違った雰囲気と発表内容となることから、より緊張感をもって取り組んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

- ① 田中 美里 (たなか みさと)
- ② 相良村立相良北小学校
- ③ 8年目
- ④ 全事研佐賀大会実行委員になりました田中美里と申します。いろいろなことが初めてで、わからないことだらけですが、とにかく何事にもチャレンジしたいと思ひています。どうぞよろしくお願ひいたします。

退職者よりメッセージ

今年度末に御退職される3名の学校事務職員より、熊事研会員の皆様へメッセージをいただきました。3名が築いてこられた熊事研が、これから更に発展していくよう、また会員の皆様方と一緒に作りあげていけたらと思ひます。メッセージいただき、ありがとうございました。

今までに、小学校6校、中学校2校に勤務しました。途中、2度ほど熊事研の事務局員となりました。最初は、学校事務必携の広告による無料配付など、不思議なことをやっていました。後日に一部から仲良しクラブの時代と揶揄されましたが、若かったので楽しいばかりでした。当時は義務教育費国庫負担問題というのがあり、国会請願に行った記憶があります。サービスは年休でした。

その後、多良木町に転勤して三職種の広域人事異動ルールをクリア。30歳代で人吉に転勤し、ここでは熊事研事務局に情報担当として紛れ込んでいました。初期の熊事研ホームページ作りをしていました。以後は熊事研の一会員です。

現在採用された方は、校種や職種をまたいで経験するとききます。2つめの職場を回り終えた次は、腰を据えて、今いるところで骨を折って下さることを期待します。そして旧採用区分の方は、3年間で一区切のルールに理解と、それに見合う研修について考えていただきたいです。あなたのお知恵とお力をほんの少し熊事研に。今、研修こそが事務職員問題を前に進ませます。

人吉市立第一中学校 北里 良徳

昭和62年4月、26歳になる年に天草郡御所浦町立嵐口小学校に赴任したのが事務職員のスタートです。熊事研では20年ほど前ですが、研究部に所属し、微力ながら学校管理運営規則のモデル案作成などに携わることができました。研究部の諸先輩からは学校事務研究に対する真摯な姿勢を教わり、また、役員の方の研究大会を通して学校事務という「職」の向上発展を図っていく、パワーあふれる姿は今でも覚えております。

私が勤務した35年間で、約3分の1の期間は音楽や吹奏楽の部活動を通して子どもたちとかかわりを持つことができました。夏の暑い日に厳しい練習に耐え、上位大会に笑顔で出場する生徒たちに私も元気をもらっていました。このように夢や希望あふれる子どもたちがいる学校に勤務することができたことは本当に幸せだったと思ひます。

学校事務は私はやりがいのある職だと思ひます。熊事研、地区事務研そして事務センター等を通しての学校事務のさらなる発展を祈念しております。 天草市立本渡中学校 山田 康博

メッセージの表題が「会報の原稿依頼」。ん？私に何の原稿依頼？と思いつつ開けましたら「退職者メッセージ」。そうか！依頼していた立場から、依頼される立場になったんだ、と改めて退職者という自分を確認しました。

41年前、天草の「二十四の瞳」のモデルではないかと思うような小さな海辺の小学校に赴任してから20年間、人懐っこい子どもたちや温かい地域の方々、パワフルな先生方と雄大な自然に囲まれ、伸び伸びと学校事務職員という仕事をさせていただきました。日々、自校の自分の業務のみ処理して終わっていましたが、それでもとても充実した毎日でした。

しかし、学校事務職員に関する様々な規則・条例が整備され、それまで教員のみ「求められる姿」がありましたが、学校事務職員にも「求められる姿」が謳われ、学校における、地域における学校事務職員の役割が大きく変わり、目の前しか見ていなかった自分を変えていかななくてはならないと奮起し、その後の21年間駆け抜けました。

まだ実現できていないことが多く、退職までのカウントダウンをもっと早く始めなくてはいけなかったと後悔していますが、本当に学校事務職員を退職するまで、子どもたちの笑顔溢れる学校作りを目標として、自分にできることを頑張りたいと思います。

そのためにも熊本県学校事務研究協議会の研究会活動を常に指標とさせていただきますので、役員の皆様はじめ会員の皆様、これからも宜しく願いいたします。

熊本市立城南中学校 上田 千浩

永年のお勤めお疲れ様でした

研究部で学んだこと

3月9日（水）に今年度最後の研究部会をオンラインにて行いました。今年度も、新型コロナウイルス感染症に振り回された研究部活動でした。しかし、研究部員それぞれが「研究のまとめ」に掲載したように、テーマに沿った取組を自分で考え行った1年にもなりました。そこで、研究部員に、今年度1年間で学んだことを尋ねてみました。（今回はキャリアのみ掲載しています）

定型職員

研究協議会という組織、役割について

定型職員

行動力・探究心・仕事への熱意

定型職員

私たちの日々の学びや業務が、これからの子ども達への未来に繋がるのだということ。やりがいと責任感。

定型職員

研究部での研究活動をとおして、より良い学校にするために学校事務職員として何ができるかということを考えるようになり、これまでの自分を振り返り主体的に業務にあたるためのヒントを学ぶことができました。

調整職員

研究部員の先生方の普段の取組などを聞き、学校事務職員として日々の業務に対する姿勢を学ばせていただきました。

調整職員

マネジメントの種類

調整職員

「企画・提案力」「調整力」「思考・判断力」「校正力」「タイムマネジメントスキル」「情報処理能力」「忙しくてもすぐ取りかかれば何とかなる力」

調整職員

学校の主役は子どもたちであること、そしてその子どもたちの笑顔を作る、守るために、教育に携わる全ての人たちは働いているのだということ。

調整職員

研究部員を務めた2年間は丸々コロナ禍で、大変な時期もありましたが、ピンチはチャンスであると感じました。
こんな時こそ学校事務職員はどう行動すべきか。他の研究部員の考え等から色々な知識を得ることができ、自身の成長に少しはつなげることができたと思います。

調整職員

考え方や方法、伝え方は異なっても目指す場所は同じだということ。

調整職員

自分の仕事、自分の学校をよりよくできないか考える時間をつくること

調整職員

熊事研大会を運営する側・必携を発行する側の立場を経験ができたことと、意識の高い方々と意見交換したり、ほかの地区の情報を得たこと。それと、つながりが増えたこと。

企画職員

県下に仲間がいること。一人じゃない。コミュニケーションを「自分から」とることの大切さ。「子どもたちの笑顔が見たい！」初心に戻ることができたことが一番の学びでした。

企画職員

なんのため(誰のため)に仕事をするのかということ

総括職員

仕事に対する意識は変わりました。
若い先生方の向上心や行動力にすごく刺激を受けました。現状維持で仕事をするのではなく、自分に(事務職員に)何ができるか常にチャレンジし、自分も楽しみながら先生方や子ども達のために頑張っていこうと思います！

企画職員

会の運営方法。プレゼン方法。学校事務職員としての心構え・考え方。研究協議会の進め方・もち方。意見のまとめ方。研究内容の反映の仕方。とその他様々なことを学びました。

あとがき

今年度も、会員の皆様の御協力により5回の会報(第139号～第143号)を発行することができました。原稿依頼させていただいた際には快くお引き受けくださり、関係の皆様には厚く感謝申し上げます。これからも、熊事研活動の報告や、タイムリーな情報発信を心がけ、会員の皆様へお届けできるよう努めてまいりますので、御意見御感想をぜひお寄せください。

また参集型の大会が開催され、皆様にお会いできる日を楽しみにしております。



熊本県学校事務研究協議会研究部情報調査班 会報担当